



Title	中村幸彦先生略年譜
Author(s)	紙谷, 栄治
Citation	國文學, 68: 121-136
Issue Date	1991-12-20
URL	http://hdl.handle.net/10112/5433
Rights	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

中村幸彦先生略年譜

明治四十四年（一九一七）

七月十五日午後、兵庫縣津名郡由良町甲一二三番地（現、洲本市

由良三丁目二一―一六）に生まれた。父中村安郎・母しげの次男。

大正元年（一九一七） 一歳

旧九月八日、祖父作吉死去。享年七十一歳。

大正六年（一九一七） 六歳

一月、祖母るいと共に、神戸市葦合区上若通りの兄作一宅に、留守

番として滞在。小學校入學まで過す。

大正七年（一九一八） 七歳

四月一日、由良尋常高等小學校に入學。

大正九年（一九二〇） 九歳

二月二十四日、父安郎が心臓を病んで死去。享年数え四十八歳。

大正十三年（一九二四） 十三歳

三月三十一日、由良尋常高等小學校を卒業。

四月一日、兵庫縣立洲本中學校に入學。洲本町（現、洲本市）内通

町一丁目、祖母の妹いその縁家、森輝一宅に下宿。

昭和四年（一九二九） 十八歳

三月五日、洲本中學校を卒業。

四月一日、大阪府立浪速高等學校文科乙類に入學。堺市甲斐町一丁

目の開口神社内の兄の仮寓から通學。国文學の教官は市川寛、窪田

敏夫。

昭和六年（一九三一） 二十歳。

市川寛先生の指導で、岡見正雄、藤田福夫、玉上琢弥らと国文學研

究会を作り、輪講会を開く。

昭和七年（一九三二） 二十一歳

三月一日、浪速高等學校文科乙類を卒業。

四月一日、京都帝國大學文學部國語國文學專攻に入學。初め

吉田山東側に下宿。二學期より、同窓迎田充員の仮寓の二階に寄宿。

左京区吉田上大路である。教官は、吉澤麟則、澤瀉久孝、額原退蔵。

講師は、市川寛、佐伯梅友。入學早々、藤井乙男先生指導の西鶴輪

講会に出席。同級の大谷篤藏、宮田正信らと共に、額原退蔵先生の

指導で、近世文學の諸作品を読む会を起す。

昭和八年（一九三三） 二十二歳

十月十日、「可笑記の一解釈」を「研究と創作」（京都帝國大學國文學科九二会発行）に発表。

昭和十年（一九三五） 二十四歳

三月三十日、京都帝國大學文學部文學科國語國文學專攻を卒業。卒業論文は「宝明期小説界の動向」。

四月二十五日、京都帝國大學大學院に入學。同窓の迎田充員が大阪へ帰ったので、下宿を隣家鈴庄文具店二階へ移す。額原退藏先生江戸語研究の為のカード採集を先輩山崎喜好の跡を継いで、大谷篤藏と共に手伝う。

昭和十二年（一九三七） 二十六歳

下宿を瘦柳軒と称し、近世文學研究學生の親睦的句会を、大谷三幸、島居安孫子、木村淑三子（のち漁三）、木久碧春（のち沙明）、寺田倚木、井口篤井、今井四縁（のち不乙）、村田南扇子、中村菜色子などと開く。昭和十四年十月まで続く。

十一月一日、私立京都専門學校教授に就任。

昭和十四年（一九三九） 二十八歳

一月六日、祖母るいが淡路で死去。享年教え九十歳。

昭和十五年（一九四〇） 二十九歳

二月二十八日、私立京都専門學校を退職。

三月一日、天理図書館司書となる。同館稀書目録の作成と、同館の綿屋文庫の係を兼ねた。

丹波市町（現、天理市）三島に下宿。

四月十四日、京都帝國大學大學院を退學。

昭和十七年（一九四二） 三十一歳

古儀堂文庫専任となる。

昭和十八年（一九四三） 三十二歳

一月、古儀堂文庫の整理は一応終り、天理図書館の囑託となる。額原退藏先生の『時代語辭典』作成の手伝いの為、京都に移り、吉田上大路十二に下宿。

十月、京都市左京区田中西高原町二十二に仮寓する。

十一月十八日、田中おかずと結婚。

昭和二十年（一九四五） 三十四歳

一月二十九日、長女ゆふ生まれる。

十月一日、天理図書館、新制度出来て司書研究員となる。

十二月、中山管長の好意により、丹波市町豊田一の旧管長邸の離れに移住。

昭和二十二年（一九四七） 三十六歳

十月九日、次女たへが生まれる。

十二月四日、妻おかずが死去。享年二十六歳。

昭和二十四年（一九四九） 三十八歳

十一月一日、天理大學教授兼天理図書館司書研究員となる。主に近世文學を担当。

昭和二十五年（一九五〇） 三十九歳

四月一日、二十五年年度の奈良女子大學文學部非常勤講師となる。その後、二十六年度、二十七年、二十八年、二十九年、三十年、三十一年、三十二年年度の講師を務めた。

九月三日、姉きよこ（高田千秋妻）が淡路志筑にて死去。享年四十六歳。

昭和二十六年（一九五一） 四十歳

十二月一日、近世文學会第一回目の会合が開かれ、会員となる。同日、近藤隆と結婚する。

昭和二十八年（一九五三） 四十二歳

四月一日、二十八年、京都大學文學部及び教養部非常勤講師となる。翌年度も同じ。

昭和二十九年（一九五四） 四十三歳

五月十一日、天理市三島上四條へ移住。

昭和三十年（一九五五） 四十四歳

夏、大東急記念文庫の整理目録作成に参加する。板坂元、長谷川強と共に近世文學書を担当。

昭和三十一年（一九五六） 四十五歳

四月一日、天理図書館司書研究員の兼任をとかれる。三十一年度、東京教育大學文學部非常勤講師となる。

昭和三十三年（一九五七） 四十六歳

四月一日、三十二年、立命館大學大学院非常勤講師となる。

昭和三十三年（一九五八） 四十七歳

三月三十一日、天理大學を退職。

四月一日、九州大學文學部教授に就任、國語學國文學第二講座（國文學）を担当。旧制及び大学院研究科指導教官併任。福岡県粕屋郡久山町下久原三一三に移住。

五月一日、三十三年、天理大學兼任講師となる。三十八年度まで継続する。

昭和三十五年（一九六〇） 四十九歳

四月一日、三十五年、広島大學文學部非常勤講師となる。

昭和三十六年（一九六一） 五十歳

四月一日、三十六年、愛媛大學文學部非常勤講師となる。

七月三十一日、兄作一が大阪で死去。享年六十九歳。

昭和三十七年（一九六二） 五十一歳

三月三十一日、京都大學より文學博士の称号を受ける。學位論文「戯作論」。

四月十六日、三十七年度、佐賀大學文理學部非常勤講師となる。

昭和四十年（一九六五） 五十四歳

十月十七日、四十年度、山口大學文理學部非常勤講師となる。

十二月一日、九州大學文學部附屬九州文化史研究施設教授併任。四十六年三月三十一日まで継続する。

昭和四十一年（一九六六） 五十五歳

四月一日、四十一年度、熊本大學教育學部非常勤講師となる。

昭和四十二年（一九六七） 五十六歳

四月一日、四十二年度、東北大學文學部非常勤講師となる。この時、同大學図書館狩野文庫を調査する。

昭和四十三年（一九六八） 五十七歳

一月、エンブラ事件を初めとして、九州大學も學園紛争に入る。以來三年、評議員、文學部長、文學部長事務取扱いなどとして、その衝にあたる。

昭和四十四年（一九六九） 五十八歳

六月、福岡市大字津屋九〇九の一に移転。

昭和四十六年（一九七一） 六十歳

三月三十一日、九州大學を退職。

四月一日、関西大學文學部教授に就任。

五月、豊中市本町八丁目一〇九（のち、四一―四に番地変更）に

仮寓する。

昭和四十七年（一九七二） 六十一歳

四月一日、四十七年度、大阪大學文學部非常勤講師となる。翌年度も継続。

十二月二十四日、母しげが死去。享年九十二歳。

昭和四十八年（一九七三） 六十二歳

四月一日、四十八年度、京都大學文學部大學院の非常勤講師となる。翌年度も継続。

昭和四十九年（一九七四） 六十三歳

四月一日、関西大學図書館長となる。五十年、五十一年にわたる。五十年度には、私立大學図書館協会の当番校としての勤めもあった。五十一年に入っては、関西大學の図書館総合計画委員会の委員長を勤めた。

昭和五十一年（一九七六） 六十五歳

五月十五日、吹田市千里山西四丁目三―二三に転居。

昭和五十二年（一九七七） 六十六歳

四月三十日、本籍地、洲本市由良三丁目一一―一六に帰る。吹田市佐井寺三丁目一五一―二、中野家に下宿して、関西大學に登學。

昭和五十四年（一九七九） 六十八歳

三月三十一日、関西大學を退職。

昭和五十六年（一九八一） 七十歳

二月十七日、『此は一夜四歌仙評釈』（角川書店発行）で、第三十二回読売文學賞を受賞する。

昭和五十七年（一九八二） 七十一歳

六月、『中村幸彦著述集』第一回を中央公論社から刊行。以来、平成元年七月二十日をもって、全十五巻の刊行を終了した。

昭和六十二年（一九八七） 七十六歳

一月十六日、『中村幸彦著述集』に至る日本近世文學研究への多大な業績により、昭和六十一年度朝日賞を受賞。

十一月三日、昭和六十二年度大阪文化賞を受賞。

昭和六十三年（一九八八） 七十七歳

六月十四日、妻隆が死去。享年七十歳。

（本年譜は『中村幸彦著述集第十五巻』所載の「中村幸彦略年譜」に拠った。）

中村幸彦先生著書目録

一、論 攷

仁齋日記抄(日本叢書八三)

昭和21年9月25日発行 生活社 B6判 紙装 31頁 2円カ

ット・小糸源太郎

§仁齋日記抄

近世小説史の研究

昭和36年5月20日発行 桜楓社出版 A5判 クロース装 388頁

1200円

§一、近世文學の特徴―緒言にかへて―/二、仮名草子の説話性
/三、西鶴の創作意識とその推移/四、自笑其破確執時代/五、
八文字屋本版木行方/六、安永天明期小説界に於ける西鶴復興/
七、洒落本の発生/八、通と文學/九、読本発生に関する諸問題
/一〇、読本展回史の一齣/一一、読本の読者/一二、人情本と
中本型読本/後語/索引

近世作家研究

昭和36年5月25日発行 三一書房 A5判 クロース装 366頁
1200円

§「好色一代男」の文体/「万の文反古」の諸問題/多田南嶺の
小説/古義堂の小説家達/都賀庭鐘伝攷/宝曆明和の大阪騒壇―
「列仙伝」の人びと―/諷刺家銅脈先生/上田秋成雜記(一) 青
年時の俳諧/二 「茶寮醉言」/三 秋成の文体/四 猥介と孤
独について/洒落本の作者(一) 「浪花色八卦」/二 「百安
楚飛」/三 「口學諺種」/四 「真似山氣登里」/五 「短華
蕤葉」/六 「雜文穿袋」/「桜姫伝」と「曙草紙」/十返舎
一九編/為永春水の手法―立作者的立場―/為永春水小論/あと
がき/索引

近世文學について―その表現の特色―

昭和40年1月31日発行 大東急記念文庫 24頁

戯作論

昭和41年9月30日発行 角川書店 B6判 クロース装 311頁
950円

§ 前言／第一章 戯作の意義／第二章 戯作の発生とその精神(一) 文人趣味とその推移／第三章 戯作の発生とその精神(二) 離世的精神／第四章 前期戯作界／第五章 後期戯作界／第六章 戯作表現の特色(一) 発想法(一) うがち／二 ちやかし／第七章 戯作表現の特色(二) 構成法／第八章 戯作表現の特色(三) 趣向の形式／第九章 戯作文章の特色／第十章 戯作作風の推移／後語―近代への接続―あとがき／索引

近世文藝思潮攷
昭和50年2月28日発行 岩波書店 B 6判 クロース装 402頁
2100円

§ 一 幕初宋學者達の文學観／二 石川丈山の詩論／三 文學は「人情を道ふ」の説／四 俳趣の成立／五 虚実皮膜論の再検討／六 文人服部南郭論／七 柳里恭の誠の説／八 五井蘭洲の文學観／九 隠れたる批評家―清田儂叟の批評的業績―／十 読本初期の小説観／十一 上田秋成の物語観／十二 小沢蘆庵歌論の新検討／十三 滝沢馬琴の小説観／十四 景樹と子規／後語

二、評 釈

と此
り一 夜四歌仙評釈
昭和55年8月25日発行 角川書店 四六判 厚紙装 215頁

§ はじめに／一夜四險発端／四歌仙其一／四歌仙其二／四歌仙其三／四歌仙其四／おわりに／俳諧連句の注釈について

三、校 注

春雨物語

昭和22年4月10日発行 積善館 A 5判 厚紙装 267頁 80円

§ 緒言／一、春雨物語(血かたびら／天津処女／海賊／目ひとつの神／舞喰上／八参考)／宮木が塚／二世の縁／捨石丸／楠公雨夜がたり／樊噲下／茶神の物語(背振翁伝)／駕央行)／一、ますらを物語／一、校註余録／一、解題

上田秋成集(日本古典文學大系56)

昭和34年7月6日発行 岩波書店 A 5判 クロース装 406頁
800円

§ 解題／凡例／雨月物語／春雨物語／膽大心録(参考)／膽大小心録 書おきの事／異本膽大小心録／膽大小心録異本／補注
風来山人集(日本古典文學大系55)

昭和36年8月7日発行 岩波書店 A 5判 クロース装 480頁

§ 解題／凡例／根南志具佐／根無草後編／風流志道軒伝／風来六部集上／風来六部集下／神靈矢口渡／補注／「神靈矢口渡」の節章解説(祐田善雄)

春色梅児誉美[△]日本古典文學大系64[△]

昭和37年8月6日発行 岩波書店 A5判 クロース装 464頁

§ 解説／凡例／春色梅児誉美^{梅麿}／^{金興}春色辰巳園／補注／諸本対照表／付図

近世隨想集[△]日本古典文學大系96[△] 中村幸彦・野村貴次・麻生磯次・校注

昭和40年9月6日発行 岩波書店 A5判 クロース装 3¹〜374

頁 1000円

§ ひとりね(解説／凡例／本文／補注)／孔雀楼筆記(解説／凡例／本文／補注)

* 野村貴次は「槐記」を、麻生磯次は「山中人饒舌」を担当。

近世文學論集[△]日本古典文學大系94[△]

昭和41年12月5日発行 岩波書店 A5判 クロース装 505頁

1000円

§ 解説／凡例／因歌八論(荷田在満)／歌意考(賀茂真淵)／源氏物語玉の小櫛「抄」(本居宣長)／歌學提要(香川景樹 内山真弓編)／徂来先生答問書「抄」(荻生徂徠)／△参考[△]徂来先生答問書／詩學途原(祇園南海)／作詩志敬(山本北山)／淡窓詩話(広瀬淡窓)／補注

近世後期儒家集[△]日本思想大系47[△] 中村幸彦・岡田武彦・校注

昭和47年3月25日発行 岩波書店 A5判 クロース装 3¹〜162、319¹〜498、518¹〜538頁、1400円

§ 凡例／細井平洲 嘯鳴館遺草(抄)／平洲先生諸民江教諭書取中井竹山 非徴(絳非)／与今村泰行論國事・經濟要語／皆川淇園 問學答要／塚田大峯 聖道得門／△付録[△]寛政異學禁關係文書／原文／補注／解説 概説第一部 近世後期儒學界の動向／

解題(一)

* 岡田武彦は、帆足万里「入學新論」、広瀬淡窓「約言」、安井息軒「弁妄」、大橋訥菴「書簡」、池田草菴「鳴鶴相和集」を担当。

英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語[△]日本古典文學全集48[△]

中村幸彦・高田衛・中村博保・校注・訳

昭和48年2月28日発行 小學館 A5判 クロース装 5¹〜17、

30¹〜38、67¹〜114頁 3000円

§ 解説／凡例／英草紙・校注・訳

* 高田衛は「西山物語」、「雨月物語」、中村博保は「春雨物語」を校注・訳

近世町人思想[△]日本思想大系59[△]

昭和50年11月28日発行 岩波書店 A5判 クロース装 445頁、

2400円

§ 凡例／長者致／子孫鑑(寒河正親)／町人癡(西川如見)／町

人考見録(三井高房)／百姓分量記(常盤源北)／教訓雜長持(伊藤
藤單朴)／△參考▽六論衍義大意(室鳩巢)／家訓(生中心得身
持可)致(分別)事(島井宗室)／幸元子孫制詞条目(鴻池新六)／
始末相統講式目(三井高房)▽／補注／解説

東海道中膝栗毛△日本古典文學全集49▽

昭和50年12月24日発行 小學館 A5判 クロース装 511頁 2
600円

§解説／凡例／東海道中膝栗毛／付録 早見道中記(抄)

四、現代語訳

雨月物語・春雨物語△現代日本古典文學全集▽ 重友毅・中村幸彦

共著

昭和28年12月20日発行 河出書房 B6判 クロース装 125頁 213

頁、240円

§春雨物語／解説

*重友毅は「雨月物語」を担当。

五、編 著

秋成△日本古典鑑賞講座24▽

昭和33年9月10日発行 角川書店 B6判 厚紙装 331頁 33

0円

§解説／本文鑑賞 秋成物語／諸道聽耳世間猿／雨月物語／痴癖
談／藤葉冊子／春雨物語／秋成の窓△ものがたりさま／秋成の小
説綱▽

日本文學の歴史8文化雜亂 中村幸彦・西山松之助共編

昭和42年12月20日発行 角川書店 四六判 クロース装 490頁
650円

§清新の詩風／民衆と學問の接点／大衆藝能の種々相

日本の思想18△安藤昌益・富永仲基・三浦梅園・石田梅岩・二宮尊
徳・海保青陵集▽

昭和46年9月20日発行 筑摩書房 四六判 クロース装 415頁

§解説 近世的思想の構造／安藤昌益 自然直營道 大序／富永

仲基 翁の文／三浦梅園 玄語 本宗／石田梅岩 約 齊家論／二

宮尊徳 二宮翁夜話(抄)／海保青陵 稽古談より 善中談より

万屋談より 論民談より／近世後期思想関係略年表／参考文献

／二宮翁夜話細目

秋成・馬琴△鑑賞日本古典文學35▽ 中村幸彦・水野稔共編

昭和52年2月5日発行 角川書店 四六判 520頁

§序説／秋成△総説／本文鑑賞／雨月物語／痴癖談／春雨物語▽

*水野稔は「馬琴」を担当。

洒落本・黄表紙・滑稽本へ鑑賞日本古典文學34 中村幸彦・浜田啓介共編

啓介共編

昭和53年2月5日発行 角川書店 四六判 131頁

§序説／戯作入門／洒落本△洒落本について／遊子方言／本文鑑賞（遊子方言）▽／黄表紙△黄表紙について／孔子稿于時藍染／本文鑑（孔子稿于時藍染）▽

* 浜田啓介は「滑稽本」を担当

六、校訂

仮名草子編一△天理閣 近世文學未刊本叢書▽ 木村三四吾と共編

昭和22年10月20日発行 養徳社

狂詩狂文篇△天理閣 近世文學未刊本叢書▽

昭和24年7月30日発行 養徳社

詰色里案内△未刊文藝資料 第三期第四冊▽ 朝倉治彦と共編

昭和28年7月10日発行 古典文庫

策伝和尚送答控 策伝自筆本一冊△未刊文藝資料第三期第五冊▽

昭和29年1月20日発行 古典文庫

八文字屋本集と研究△未刊國文資料第一期第六冊▽

昭和32年6月20日発行 未刊國文資料刊行会

初期洒落本集△古典文庫第百三十四冊▽

昭和33年9月20日発行 古典文庫

狐媚鈔・化女集△西日本國語國文學会翻刻双書第一期第八冊▽

昭和38年12月15日発行 西日本國語國文學会翻刻双書刊行会

遠近草・元用集△西日本國語國文學会翻刻双書第二期第五冊▽ 橘

英哲と共同校訂

昭和40年2月28日発行 西日本國語國文學会翻刻双書刊行会

清水宗川問書△西日本國語國文學会翻刻双書第二期第八冊▽ 田中

道雄と共同校訂

昭和40年10月30日発行 西日本國語國文學会翻刻双書刊行会

上方滑稽本集△近世文藝叢刊第四卷▽

昭和45年11月7日発行 般庵野間光辰先生華甲記念会

甲子夜話△東洋文庫▽ 全六卷 中野三敏と共同校訂

昭和52年4月25日 昭和53年11月15日発行 平凡社

甲子夜話続篇△東洋文庫▽ 全八卷 中野三敏と共同校訂

昭和54年8月24日 昭和56年8月10日発行 平凡社

甲子夜話三篇△東洋文庫▽ 全六卷 中野三敏と共同校訂

昭和57年9月10日 昭和58年11月10日発行 平凡社

七、戯著

江戸
前橋 機関銃

昭和18年11月(日付なし) 天理時報社

八、他者による私家版

書誌の話

昭和60年5月(日付なし) (東京都港区東麻布一―十八―九)

八木敬一

九、著述集

中村幸彦著述集第一卷(近世文藝思潮論)

昭和57年11月10日発行 中央公論社 A5判 布製 第六回配本

§一 暮初末學者達の文學観／二 石川丈山の詩論／三 文學は

「人情を道ふ」の説／四 俳趣の成立／五 虚実皮膜論の再検討

／六 文人服部南郭論／七 柳里恭の誠の説―付洪國略伝―／八

五井蘭州の文學観／九 隠れたる批評家／十 読本初期の小説観

／十一 上田秋成の物語観／十二 小沢蘆庵歌論の新検討／十三

滝沢馬琴の小説観／十四 景樹と子規／付一 風雅論的文学観／

付二 清新論的文学観

中村幸彦著述集第二卷(近世的表现)

昭和57年6月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第一回配本

§前言／第一章 場について／第二章 俳言とその流れ／第三章

口頭話体の様相／第四章 型の記事／第五章 西鶴の即物主義／
第六章 俳諧の客観性／第七章 修辭の形式／第八章 構成の特
色／後語

中村幸彦著述集第三卷(近世文藝吟稿)

昭和58年5月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第十回配本

§一 研究方法／二 時代精神／三 作家環境／四 小説小論／

五 浄瑠璃、歌舞伎／六 川柳、雑俳／七 近世歌謡資料二三／

八 古典と近世文學

中村幸彦著述集第四卷(近世小説史)

昭和62年11月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第十四回配

本

§第一章 序説／第二章 仮名草子の性格／第三章 西鶴作品の

史的意義／第四章 八文字屋本の顛末／第五章 文運東漸／第

七章 初期読本の作家達／第七章 前期滑稽本の展開／第八章 洒

落本の変遷／第九章 後期滑稽本の興趣／第十章 後期読本の推

移／第十一章 人情本と為永春水／第十二章 草双紙の諸相

中村幸彦著述集第五卷(近世小説様式史考)

昭和57年8月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第三回配本

§近世文學の特徴／仮名草子の説話性／印刷の時点／大坂物語諸

本の変異／朝鮮説話集と仮名草子／西鶴の創作意識とその推移／

編輯者西鶴の一面／自笑其碩確執時代／八文字屋本版木行方／安

永天明期小説界に於ける西鶴復興／洒落本の發生／通と文學／深

川通言と上方語／洒落本における後刷、後版の問題／黄表紙の繪

解き／読本發生に関する諸問題／読本展回史の一齣／椿説弓張月

の史的位置／読本と読者／人情本と中本型読本

中村幸彦著述集第六卷△近世作家作品論▽

昭和57年9月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第四回配本

§一 林羅山の翻訳文學／二 好色二代男の文体／三 万の文反

古の諸問題／四 西鶴俗つれ／の書誌的考察／五 多田南嶺の

小説／六 宝曆明和の大阪騒壇／七 諷刺家銅脈先生／八 上田

秋成雜記／九 秋成に描かれた人々／十 絵本太閤記について／

十一 桜姫伝と曙草紙／十二 十返舎一九論／十三 為永春水の

手法／十四 為永春水小論

中村幸彦著述集第七卷△近世比較文學攷▽

昭和59年3月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第十二回配

本

§第一章 唐話の流行と白話文學書の輸入／第二章 日本人作白

話文の解説／第三章 古義堂の小説家達／第四章 水滸伝と近世

文學／第五章 白菊奇談と石点頭／第六章 通俗物雜談／第七章

近世初期の漢文學／第八章 幕末漢詩壇の動向／第九章 幕末の

田園詩／第十章 近世に
おける小説としての源氏物語評／付録 漢籍和訳

翻案

中村幸彦著述集第八卷△戲作論▽

昭和57年7月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第二回配本

§前言／第一章 戲作の意義／第二章 戲作の發生とその精神(一)

／第三章 戲作の發生とその精神(二)／第四章 前期戲作界第五

章 後期戲作界／第六章 戲作表現の特色(一)／第七章 戲作表現

の特色(二)／第八章 戲作表現の特色(三)／第九章 戲作文章の特色

／第十章 戲作作風の推移／後語／付一 遊子方言評注／付二

孔子篇于時盛染評注

中村幸彦著述集第九卷△俳諧瑣説▽

昭和57年12月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第七回配本

§一 俳諧瑣論／二 俳壇の構成／三 初期名古屋俳壇の一資料

／四 去來雜感／五 支考論／六 談林発句鑑賞／七 此は一夜

四歌仙評釈

中村幸彦著述集第十卷△舌耕文學談▽

昭和58年8月25日発行 中央公論社 A5判 布装 第十一回配

本

§一 序章／二 実録、講談について／三 落語について／四

舌耕文藝資料断片／五 浪花節について／六 大阪俄について／

目錄

中村幸彦著述集第十一卷ハ漢學者記事V

昭和57年10月10日発行 中央公論社 A5判 布装 第五回配本

§一 伊藤仁斎の思想／二 伊藤仁斎日記抄／三 名物六帖の成立と刊行／四 操觚字訣の成立／五 古義堂の藏板に関する文書について／六 古義堂雜記／七 伊藤東涯來簡集抄／八 老莊思想の實踐者 金蘭齋／九 穂積以貫逸事／十 宮崎筠圃と古義堂／十一 黒川道祐伝補遺／十二 雨森芳洲とその交友／十三 都賀庭鐘伝攷／十四 都賀庭鐘の中國趣味／十五 文人片影／十六 近世文人意識の成立／十七 近世後期儒學界の動向

中村幸彦著述集第十二卷ハ國學者紀譚V

昭和58年2月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第八回配本

§一 國學雜感／二 契沖譚／三 万葉考自筆の一稿本／四 紀伊殿の關秀歌人達／五 万葉集をめぐる國學者の生活／六 撰稿士古事記伝をめぐる／七 上田秋成伝淺説／八 賢愚同袋／付一 細川幽齋の文學生活／付二 安樂庵策伝とその周圀／九 擬古文論

中村幸彦著述集第十三卷ハ近世世語V

昭和59年7月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第十三回配本

本

§言語 一 近世世語彙の資料について／二 近世世語資料としての

詞彙新雅／三 語義と用語例／四 近世世語の意義變化／五 語義考証／六 これからの古語辞典／社会 一 町人の交際／二 江戸の娯楽について／三 江戸の笑い／四 御蔭参りの文學／五 物のはじまり／六 古典注釈における料理書の利用について／七 食儀雜記／八 近世初期文學と公娼街／九 狭斜模様／園外文學 一 近世隨筆について／二 近世園外文學談

中村幸彦著述集第十四卷ハ書誌叢談V

昭和58年3月30日発行 中央公論社 A5判 布装 第九回配本

§一 書誌學雜談／二 本のはなし／三 解題／四 未刊隨筆談／五 図書館と文庫／付 新しい図書館員

中村幸彦著述集第十五卷ハ菜色子雜筆V

平成元年7月20日発行 中央公論社 A5判 布装 第十五回配本

§天理時代 秋の七草／悪口の味／江戸機関銃／菜色雜筆一より／菜色雜筆二より／桜によせて／根性／三余漫言／基礎作業のすすめ／頼原先生を想う／文學の罪について／田園交響楽の映画と小説／めでたさのパロメーター／大和の古典歌謡／菜色雜筆三より／家族制度の今昔／學生の自分を忘れるな／菜色子雜筆五より／西鶴研究の現勢を顧る／古書隨想／「文學」としての鑑賞へ／望む天理大學の自重／九州大學時代 再び菜色雜筆五より／春雨

物語／杉浦正一郎氏回顧／九州だより／文藝ノート／葉色子雜筆
 七より／九州文壇の歴史／天理大學國文學會発足の頃／言葉の環
 境／江戸の諷刺家たち／細川文庫について／スミの祖先／背のび
 ／小高君の志向したもの／菅長さんと古義堂文庫と私／學園紛争
 ／関西大學時代 文學のすすめ／落語大學雜記／新村先生と古義
 堂遺書／學問への道標／大學図書館の意義／西鶴のおもしろさ／
 総合評議委員會発足にあたって／好きでこそ真學問／私と図書館／
 富永先生を語る／和本書誌のしるべ／淡路由良時代 近世の文人
 達／金岡丈夫先生著『孤燈の夢』解説／重友先生の學問／抄記の
 さまさま／江戸の夢大阪の夢／長澤先生と近世文學書／擬擬古文
 ／古語辭典と現代俳句／古義堂文庫余談語／語孟字義について／
 点から線へ、線から円へ／石川淳『新釈雨月物語』解説／上田秋
 成雜集／古義堂文庫／森銃三翁を悼む／遠山近水／台帳に対する
 姿勢／淡路操人形芝居の思い出／野間先生の事ども／追悼石川淳
 先生／道聴塗説記 道聴塗説記卷之一／道聴塗説記卷之二／道聴
 塗説記卷之三／中村幸彦書誌（谷澤永一）／中村幸彦略年譜／総
 索引／中村幸彦著述集総目次

十、編輯書

額原退蔵著 川柳雜俳用語考 附西御用語考

昭和28年5月5日発行 岩波書店

*編輯・補訂

西日本國語國文學翻刻双書 第一期八卷九冊 第二期八卷八冊 全

十七冊

昭和36年8月10日、昭和41年5月30日発行 西日本國語國文學會

翻刻双書刊行会

*発起人および編輯參画

西鶴

昭和40年4月23日発行 天理図書館編輯刊行

*編輯に參加・解説執筆

日本思想大系 全六十七卷

昭和45年5月25日、昭和57年5月31日発行 岩波書店

*編集委員 家永三郎・石母田正・井上光貞・相良亨・中村幸

彦・尾藤正英・丸山貞真・吉川幸次郎

芭蕉の本八第一卷、作家の基盤

昭和45年8月10日発行 角川書店

森銃三著作集 全十二巻別巻一卷

昭和45年12月10日、昭和47年8月25日発行 中央公論社

*編集 野間光辰・中村幸彦・朝倉治彦

*普及版 昭和48年7月10日、昭和49年7月10日発行 他に新装愛

蔵版あり

天理
圖書館 善本叢書 和書 全六期八十卷

昭和46年11月14日、昭和61年11月14日発行 天理大學出版部 製

作発売八木書店

* 編集委員 野間光辰・植田英次・中村幸彦・中村忠行・木村三

四吾・片桐洋一・今西実・飯田照明・金子和正

長瀬先生
古稀記念 図書學論集

昭和48年5月14日発行 三省堂

* 編輯委員 市川安司・中村幸彦・阿部隆一・長谷川強

尾崎久彌著『近世庶民文學論考』

昭和48年7月5日発行 中央公論社

大東急善本叢刊 近世篇 全十九卷
記念文庫

昭和51年2月、昭和55年6月、8日付なし、発行 大東急記念文庫

製作発売汲古書院 * 責任編集

日本庶民文化史料集成(第八卷)寄席・見世物

昭和51年8月31日発行 三一書房

* 第八卷責任編集 関山和夫・中村幸彦・延広真治

洒落本大成 全二十九卷補卷一卷

昭和53年9月11日、昭和63年11月20日発行 中央公論社

* 編集 水野稔・中村幸彦・神保五彌・浜田啓介・植谷元・中野

三敏

隨筆百花苑 全十五卷

昭和54年11月20日、昭和59年10月20日発行 中央公論社

* 編者 森銑三・野間光辰・中村幸彦・朝倉治彦

* 責任編集 第六卷 隨想篇 昭和58年6月25日発行

* 責任編集 第十五卷 地方篇 昭和56年6月20日発行

額原退蔵著作集 第一卷

昭和55年5月10日発行 中央公論社

角川古語大辭典 全數卷

昭和57年6月10日発行以降 角川書店

* 編者 中村幸彦・岡見正雄・阪倉篤義

広瀬旭莊全集 全十二卷索引一卷

昭和57年6月30日、昭和63年1月25日発行 思文閣出版

* 編集委員 中村幸彦・岡村繁・多治比郁夫・中野三敏・井上敏

幸 既刊九冊

長澤規矩也著作集 全十卷別巻一卷

昭和57年8月20日、平成元年7月25日発行 汲古書院

長澤規矩也先生喜寿記念会編集委員 阿部隆一・市川安司・榎一

雄・川瀬一馬・久曾神昇・築島裕・中村幸彦・麓保孝

日本古典文學大辭典 全六卷

昭和58年10月20日〜昭和60年2月20日発行 岩波書店

を参照下さい。

* 編集委員 秋山慶・大久保正・大谷篤藏・久保田淳・佐竹昭広
・信多純一・堤精二・中村幸彦

近世白話小説翻訳集 第一期全五巻 第二期全八巻

昭和59年9月〜昭和63年3月8日付なし▽発行 汲古書院

近世の漢詩

昭和61年4月8日付なし▽ 大東急記念文庫公開講座講演録 大

東急記念文庫編 汲古書院

日本古典文學大辞典 簡約版

昭和61年12月2日発行 岩波書店

* 編集委員 親版に同じ

十一、監修書

大阪本屋仲間記録 全十六巻

昭和50年3月30日〜平成3年3月30日発行 大阪府立中之島図書館

館編刊 発売元清文堂出版

* 監修 野間光辰・中村幸彦・大谷篤藏・木村三四吾・浜田啓介

著作については、谷澤永一「中村幸彦書誌」(『中村幸

彦著述集第十五巻』平成元年7月20日発行、中央公論社)